

チャ寄生ミカントゲコナジラミの効果的防除のための薬剤散布法			
【要約】 うねの両側から茶株中央部に向けて水平に薬剤散布するすそ重点散布は、茶株上方からの慣行散布より、すそ葉への <u>薬剤付着性</u> 、 <u>ミカントゲコナジラミ</u> の防除効果に優れる。また、乗用型送風式農薬散布機を用いて薬剤を標準散布量の <u>半量散布</u> にしても、十分な防除効果が得られる。			
農業技術振興センター・茶業指導所・茶振興担当		【実施期間】 平成 20 年度	
【部会】 農産	【分野】 環境保全型技術	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

本県では 2006 年 9 月にミカントゲコナジラミのチャへの寄生を確認以来、主要茶産地全域に分布が拡大し、各地で大発生して問題となっている。ミカントゲコナジラミの幼虫は、薬剤が付着しにくいすそ部分や葉層内の葉裏に多く生息しており、効果的な防除方法の確立が強く求められている。そこで、本害虫の薬剤防除をより効果的に行うことができる散布法を検討する。

【成果の内容・特徴】

- ① すそ重点散布とは、うねの両側から水平に、茶株中央部に向けて薬剤散布する散布法である（図 1）。
- ② 両すその最下部とうねの中央部の葉層内の葉裏における、標準散布量 400 L / 10 a での薬剤付着状況について比較すると、すそ重点散布は、慣行散布と比べ、主要な寄生部位であるすそ部分の薬剤付着面積率が向上する（図 2）。
- ③ ハチハチ乳剤を標準散布量で散布する場合にすそ重点散布すると、慣行散布より防除効果が向上する（表 1）。
- ④ ハチハチ乳剤の薬剤散布量を標準の半量にしてすそ重点散布しても、慣行標準量散布以上の防除効果が得られる（表 2）。
- ⑤ ダニゲッターフロアブルの標準散布量を、手散布ですそ重点散布しても、実用的な防除効果が得られる（表 3）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 茶業指導所内茶園での成果である。
- ② 表 1 と表 2 の試験では、乗用型送風式農薬散布機のフロアの吹き出し口に、ミスト噴口を設置する方法で、すそ重点散布を行った。
- ③ 表 3 の試験は、背負式動力噴霧機で 2 頭口のキリナシ噴口によって、すそ重点散布を行った。
- ④ 既存の乗用型防除機により、すそ重点散布をする場合は、ブームノズルの角度調整等の改良が必要となる。
- ⑤ 動力噴霧機による手散布ですそ重点散布をする場合は、すそ葉の裏側によくかかるよう、散布の方向に留意する。

[具体的データ]

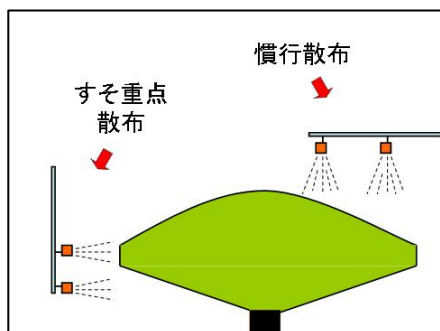


図1 すそ重点散布の図解

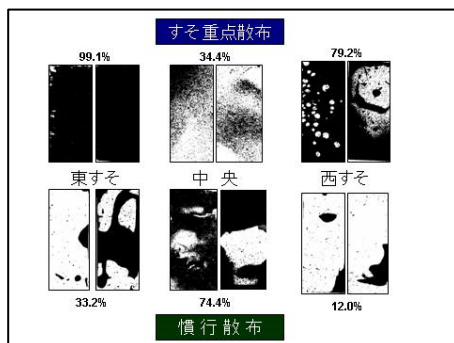


図2 両散布法の葉裏への薬剤付着状況

注) 感光紙に薬剤がした部位を黒で示す。数値は付着面積率の平均値

表1 ミカントゲコナジラミに対するすそ重点散布の防除効果

処理区名	散布前虫数 (10/29)					散布30日後虫数 (11/28)				防除率 (%)
	1 齢	2 齢	3 齢	4 齢	合計	3 齢	4 齢	羽化済脱皮殻	合計	
すそ重点散布	238	956	456	331	1,981	271	96	13	380	72.4
慣行散布	217	978	435	219	1,848	653	198	26	877	31.7
無処理	256	995	342	178	1,770	947	249	34	1,229	

注) 防除薬剤としてハチハチ乳剤を400L/10a散布した。ミカントゲコナジラミは甚発生。

表2 ミカントゲコナジラミに対する半量散布の防除効果

処理区名	散布前虫数 (10/29)					散布30日後虫数 (11/28)				防除率 (%)
	1 齢	2 齢	3 齢	4 齢	合計	3 齢	4 齢	羽化済脱皮殻	合計	
すそ重点半量散布	26	83	24	2	134	19	6	1	26	91.0
慣行散布	24	65	25	6	119	29	6	1	36	85.9
無処理	35	22	23	4	83	147	27	2	176	

注) 防除薬剤としてハチハチ乳剤を使用し、すそ重点半量散布は200L/10a、慣行散布は400L/10a散布した。ミカントゲコナジラミは中発生。

表3 ミカントゲコナジラミに対する手散布によるすそ重点散布の防除効果

処理区名	散布前虫数 (10/21)					散布27日後虫数 (11/17)				防除率 (%)
	1 齢	2 齢	3 齢	4 齢	合計	3 齢	4 齢	羽化済脱皮殻	合計	
すそ重点散布 (手散布)	365	403	97	50	915	95	24	10	130	67.8
無処理	524	436	270	665	1,894	504	254	75	833	

注) 防除薬剤としてダニゲッターフロアブルを400L/10a散布した。ミカントゲコナジラミの発生状況は、甚発生。

[その他]

・研究課題名

大課題名：琵琶湖の水質・生態系保全に配慮した特色ある農林水産技術の開発

中課題名：環境こだわり農業推進のための技術開発

小課題名：環境こだわり農業を支える茶園管理技術の開発

・研究担当者名：竹若与志一 (平成20年度)

・その他特記事項：平成20年度技術的試験研究要請課題 (甲賀県事務所)